令和５年２月10日　虹の家事業所だより

なないろ

「論語と算盤」

（幸せをめざして PART 38）

所　長　　小　野　　真

渋沢栄一と言えば「青天を衝け」の主人公そして、令和６年度に刷新される１万円札の図柄の人物を連想するのではないでしょうか。実はとても凄い人で、「日本資本主義の父」と呼ばれ、明治時代に、起業家として活躍し、現在の「みずほ銀行」や「東京ガス」、「帝国ホテル」、「キリンビール」など 470 社以上の会社の設立に関わっています。

最近注目されているのが、渋沢が著した『論語と算盤』で 100 年以上読み継がれてきた名著です。「論語」とは道徳、「算盤」とは利益を追求する経済活動のことで、論語「と」算盤の両方を合わせることによって、車の両輪がそろい、社会は健全に発展していくということです。したがって、渋沢の思想は黒「か」白ではなくて、黒「と」白を合致させて考えることができ「と」の力を重視しています。

全世界で取り組んでいる SDGs を渋沢の思想に置き換えて考えると「できるかできないか」という「か」の問題ではありません。2030 年のゴールを目指して、一人ひとりが知見や経験を自由に組み合わせ、時間や空間を超えて試行錯誤を繰り返していくその「と」の結集こそが SDGs 達成に必要な力なります。

コロナ禍において健康か経済かと言われていますが、健康と経済の両方を成立させて行く流れになっています。自分（ME）の健康も大事だけど、社会（WE）もまわさないと良い方向に向かわないとされています。このことにも渋沢の思想が反映されています。

利用者の皆さんの生活場面においてもこのような事象が多く出現しているように思います。「挑戦せずに自分に向いている仕事を１つに決めてしまう」「コロナ感染予防には、手洗い、うがいが第一、そうではなく、栄養と睡眠が第一」このように「イエスかノーか」の二項対立の考えに固執してしまうことがあります。どちらも正しい答えがないことを前提に、「自分ごと」として関わる姿勢や勇気を持つことが大事なのです。

まずは、大事なことから取り組むということで、面倒臭がらずに行動することから始め、行動していればそのうちそれ以外のことも取り組めるようになるはずだからです。

この写真 の作成者 不明な作成者 は CC BY-SA のライセンスを許諾されています

鬼は外、福は内

恵方巻き美味しいね